

令和5年(2023年) 年頭のご挨拶

令和5年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は本会の運営に特段のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年本県においては、42年ぶりとなる国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」と、初めての全国障害者スポーツ大会となる「いちご一会とちぎ大会」が開催されました。全国から集まった選手たちにより熱戦が繰り広げられ、私たちに大きな感動を与えてくれたのは記憶に新しいところです。また、今夏に予定される宇都宮市次世代型路面電車(LRT)の開業に先立ち、11月にはJR宇都宮駅東口地区で「まちびらき」が行われました。商業施設やコンベンション施設、北関東最大級の駅前広場などが開業し、県都の活性化に弾みがつくことが期待されます。

一方で、昨年は引き続き新型コロナウイルスに翻弄された一年でもありました。徐々に感染状況に応じた行動様式をとる流れが定着してまいりましたが、感染拡大の波はいまだ収まらず、経済の本格的な回復は道半ばにあります。傷んだサプライチェーンや物流網の回復も十分ではなかったことから、部品・原材料等の調達難とそれに伴う物価上昇が顕在化しました。

そして、何より私たちを驚かせたのは2月のロシアによるウクライナ侵攻であり、現在もその終結の見通しは立っておりません。このことは世界全体に深刻な影響を及ぼし、原油をはじめとする資源・エネルギー価格を中心に更なる物価高騰を招き、近年では例を見ないインフレに拍車を掛けました。加えて日本では、約32年ぶりの水準となる歴史的な円安が進行したことで輸入品を中心に物価上昇に歯止めがかからず、特に価格転嫁の進まない中小企業は収益を圧迫され、会員組合の皆様からもそのような声が多く寄せられました。コロナショックによる落ち込みから脱しきれないうちに物価高騰に苦しめられる大変厳しい一年であったとともに、中小企業も否応なしにグローバル化のうねりの中にいることを思い知らされた一年でありました。

そのような中で迎えた令和5年、事業者には、引き続き慎重に感染抑制と経済活動の両立を図っていくとともに、デジタル化の推進、人材の確保と賃金上昇圧力への対応、事業承継などの経営課題に取り組み、さらには将来を見据えた脱炭素やSDGsの取組等を前進させていくことが求められております。事業者は更なる生産性向上を図ることでこれらの山積する課題に対応していかなければなりません。個々の取組では自ずと限界があります。そのようなときに効果を発揮するのが組合等連携組織の持つ協同の力です。事業者の皆様にはこの困難な状況をチャンスと捉え、組合等を活用することで不足する経営資源を補い、課題克服に向けたアクションを果敢に進めていただきたいと考えます。本会といたしましても、組合等連携組織の専門支援機関としてこれまで培ったノウハウやコーディネート機能を発揮

し、多様で活力ある中小企業の振興発展のために全力で支援に取り組んで参る所存です。その先に見えてくるのは、ポストコロナに向けてギアチェンジした新しい時代と、本県及び我が国経済再生の実現であると確信します。

今年の干支は「癸卯」(みずのと・う)です。「癸」は次の生命を育む準備が完了した状態を指し、「卯」は草木が地面を覆うようになった状態、いわば萌え出る春のイメージを表すといえます。コロナ禍などで停滞した世の中に希望が芽吹き、私たちのこれまでの努力が花開く年となることを願ってやみません。

結びに、本年が会員並びに構成員企業の皆様にとって、充実したより良い年となりますことを心からお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

令和5年1月4日

栃木県中小企業団体中央会

会長 齋藤 高藏